

令和2年度使用小学校教科用図書 調査研究報告用紙

種目	国 語
----	-----

※発行者番号の小さい順に記入

発行者番号・略称 書 名	特 徴 ・ 特 記 す べ き 事 項
2 東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語や文例により巻末の漢字付録が使いやすい。身に付けさせたい言語指導「☆言葉の力」が言語の習得につながる。「ノートの作り方」のページがあり、指導の充実につながる。 ・単元冒頭のページ「つかむ」や単元を通して考えることが大きな課題となって考える猿マーク(例)「……には、どんなことに気をつければよいだろう。」、終末の「ふり返る」など学習過程が明確に示されている。ノートやメモ、カード、図表の例を多数挙げ、思考の可視化を図っている。 ・現代的な課題分野を高学年で特に多く扱っている。インターネット投稿の議論などの情報関連や、「プロフェッショナルたち」ではキャリア教育につながる単元もある。 ・行数を数えやすいようにドットの工夫がある。文字の大きさや行間が適切である。 ・年間を通した読書指導がある。特に、作者からの紹介分が載せられていることには目が引く。「生かそう」で身に付けた力を活用できる。
11 学 図	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の見通しをもとう」で学習課程が分かる。「国語のカギ」で指導事項が明確になっている。「漢字の広場」では当該学年の漢字を、「言葉をつないで文を作ろう」では前学年の漢字をドリル的に練習させるように提示してある。ルーペマークにより、国語辞典で意味調べさせたい言葉を指定している。
17 教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」により語彙指導の充実を図っている。「ノートの作り方」【ここが大事】の充実により基礎基本の習得が図られている。 ・学習過程「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」下段のパネリストの対話形式は、児童の思考を巡らせる助けとなっている。学習ツールの例示が思考を整理し、可視化できるので課題解決へと導くことができる。 ・教科横断的な学習になるよう、理科や社会とのつながりを意識した教材が多い。
38 光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」では、新しく「いかそう」の追記により発展的な活動や「単元を貫く言語活動」へと導ける。学力調査問題で課題となった「話し合い」を考慮した新教材がある。説明文では従来の第一教材を「練習」と明記し、第二教材はそれを活用することが明確になった。巻末の付録の充実「言葉のたから箱」は語彙の習得を図ることができるよう配慮されている。 ・「読む」領域では学習の課程「とらえよう、ふかめよう、まとめよう、ひろげよう」、「話す・聞く、書く」の領域では、「学習の進め方」の提示により課題解決学習を重視している。 ・「季節の言葉」が年間4か所、その他に古典芸能、俳句、短歌と伝統文化が他社より充実している。 ・「メディア社会と生き方」やプログラミング、情報の扱い方、情報の整理の仕方を意識している。調べ学習にも生かしやすい。 ・高学年でも場面分けを意図して行間が設けてある。文字の太さ、濃さがはっきり見やすい。 ・見開きで左右を比較できる配置の工夫が見られる。絵や写真、図の用途が的確である。点字教材がユニバーサルでよい。QRコードで資料等の補充ができる。